

Title	創刊にあたって
Sub Title	
Author	永戸, 多喜雄(Eito, Takio)
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2008
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. 中国研究 (The Hiyoshi review of Chinese studies). No.1 (2008. 3)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA12310306-20080331--002

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

創刊にあたって*

*本文は「慶應義塾大学日吉紀要」創刊時（一九八五年）の巻頭文の再掲である。

慶應義塾大学日吉キャンパスでは、学部を単位とする紀要が刊行されてきたが、同一のキャンパスを研究活動の本拠とする六つの学部所属研究者の構成に、より良く適合する紀要の在り方を求め、三年間にわたり内部討論を重ねたわれわれは、研究発表機関は学部ごとに分割されるべきではないとの共通認識に到達した。以後、この認識にもとづいて新紀要準備委員会が組織され、大学当局との折衝を経て、ようやく装い新たな「慶應義塾大学日吉紀要」を刊行するはこびとなった。

「人文科学」、「社会科学」、「自然科学」、「英語英米文学」、「ドイツ語学・文学」、「フランス語フランス文学」、「言語・文化・コミュニケーション」の七篇から成る「日吉紀要」は、研究部門ないし専攻分野によって形成される研究者集団を基盤とし、各篇は独立した編集委員会によって編集される一方、それらの委員会は自主性を保ちつつ相互に緊密な協力関係を確立し、それを維持する責任を負っている。

われわれの中には、紀要の刊行を通じて、学問研究の閉鎖性を打破し、互いに周辺領域への理解を深めあい、さまざまな研究部門・分野のあいだに有機的な結合を実現させたいという熱い願望がある。言い換えれば「日吉紀要」の総体は、大学の再創造を指向する滔滔たる底流が地表に吹き出した一つの形態であるといえよう。

日吉の丘に大学が開設されてから半世紀を経た今日、大学もわれわれも、ともに重大な岐路に立っているのではあるまいか。この際、われわれは、身辺に壁をめぐらして耳目を掩い感性を麻痺させることを頑なに拒み、窓を大きく開いて世界に語りかけ、謙虚に世界の声に耳を傾ける姿勢を大事にしたいと思う。

創刊にあたり、各方面の先学諸賢から、われわれの紀要に忌憚のない御批判と懇切な御教示が寄せられることを衷心より希望してやまない。

一九八五年六月

慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会

委員長 永戸多喜雄